

議員活動報告 暮らし優先の市政と魅力あるまちづくりを

鶴岡市議会議員 くどうひろし 工藤 博 (市民フォーラム)

2025 年 3 月



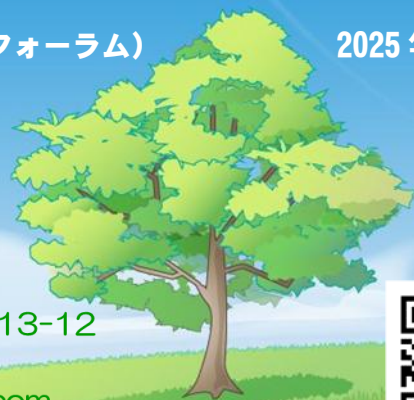
■ 市政に関する問い合わせ（連絡先）

住所 997-0823 鶴岡市海老島町13-12

電話 080-1824-7960

mail mynamehiroshi910@gmail.com

HP <http://hiroshi910.com>



***** 3月定例会、一般質問（質問➡工藤・答弁➡担当部長） *****

●「有害鳥獣捕獲後の対応」について

【質問】全国的に、野生動物による生活被害や農林業被害などが深刻化しており、本市でも熊、猿の市街地への出没が増加し、森林や農作物に甚大な被害をもたらす猪や鹿の出没も多くなっています。

猪は捕獲を開始した2017年に比べて、2024年の捕獲頭数が7倍になるなど、中山間地だけでなく広範囲に出没しています。

同年の比較で、熊は3倍、猿は1.5倍になるなど、有害鳥獣の捕獲は本市における農林水産業の重点課題になっています。

この様に、有害鳥獣の捕獲頭数が増えているなかで、捕獲後の適正処理は捕獲従事者にとって負担が大きくなっており、見直さなければならぬ状況になっているのではないのでしょうか。

本来、有害鳥獣の頭数制限による捕獲は自治体が主体的に行う業務であり、捕獲にあたって狩猟免許が必要であることから、猟友会の協力によって実施できていることを改めて認識すべきです。

猟友会員の減少と高齢化が進んでいることもあり、捕獲従事者の負担軽減について、どの様に考えているのか教えてください。

【答弁】猪による被害は平成28年度に、羽黒、朝日、温海地域で確認されて以降、出没範囲が拡大しています。

今年度の猪の捕獲頭数は市内全体において、1月末時点で157頭となっており、これは昨年同時期の65頭から2倍以上の増加となっています。

鳥獣を捕獲した場合は鳥獣保護管理法におい

て、原則として現場から持ち帰ることとし、止む負えない場合に限り、生体系に影響を与えないような適切な方法で、埋設することとされています。

このため、捕獲後は捕獲場所からトラックなどの車両まで運び出し、自宅などに運搬後に可食部を除いた皮や骨などの残渣を埋設する方法が一般的となっています。

これまで、猟友会員や実施隊員の方と捕獲作業の課題について協議したところ、先ほど述べた一連の作業は大変負担が大きいという意見を頂いています。

特に冬は積雪のために車両の入る箇所が限られていることから運び出す距離が長くなり、夏の捕獲に比べ労力がかかるというような声もお聞きしています。

本市において、猪を捕獲した場合、捕獲活動経費や運搬焼却処分費などに対し、1頭あたり1万2,000円から1万5,000円を補助していますけれども、補助金だけでなく、同じような問題に対応している他自治体の先行事例を調査するなど、捕獲充実者の負担軽減に対する支援の方法について、検討していきたいと考えています。

【質問】有害鳥獣の捕獲頭数が増大しているなかで「適切に埋設する場所や作業の確保が困難である」「埋設した後の土壌汚染など衛生面での問題がある」などの観点から、粉碎後焼却、生物処理後焼却、資源化を実施している自治体も増えてきています。

適切な処理が困難な場合を除いて、可能な限り捕獲個体を現場から搬出し、自治体が提供する処理システムなどによって、適正に処理して

いくことが重要だと思いますが、どの様に考えているのか教えてください。

【答弁】捕獲解体後の皮や骨などの残渣を埋設するには、野生動物からの掘り起こしを防ぐため、ある程度の深さが必要となり、捕獲従事者にとって大きな負担となっています。

こうしたことから、本市では鶴岡市鳥獣被害防止対策協議会の取り組みとして、令和7年度に簡易減容化施設を2箇所設置し、捕獲後の処分に対する負担軽減を考えているところです。

微生物により残渣を分解処理する方法で、コルゲート管と呼ばれる直径1m、長さ4mの管を縦に地中に埋設して、その中に捕獲した野生鳥獣の残渣分解を促す発酵補助剤を投入することで、残渣の容積縮小の促進と臭気の低減を行うというものです。

先行して実施している和歌山県によると、規模によりますが、一般的な生物処理施設や専用の焼却炉の建設に数千万円かかる費用に比べ、格段に安価な施設ということになるようです。

また、東北一の面積である本市の場合、安価な施設を複数箇所に設置することで、運搬距離の問題も解決できるのではないかと考えています。

設置後は、施設利用者の意見や要望などを聞きながら、匂いや分解の状況を確認しつつ、今後の処理方法として効果を検証していきたいと考えています。

【質問】本市で、捕獲された鳥獣の種ごとの平均重量に対し、食肉として利用可能と思われる部位の歩留まりを求め、頭数で単純に計算すると、2022年は3,000kg、2023年は4,200kg、2024年は2,900kgになると考えられます。

全国では、有害鳥獣として捕獲された鳥獣をジビエやペットフードに加工するなど、命を大切するという観点から、食材資源として活用する取り組みを行っている自治体もあります。

ユネスコ食文化創造都市である本市が、本場ヨーロッパに負けない、中山間地におけるジビエ料理を推奨していくことは、食文化の継承として意義のある取り組みだと思いますが、どの様に考えているのか教えてください。

【答弁】野生鳥獣の食肉処理をするにあたっては、放射能物質の全頭検査の実施や捕獲後2時間程度で食肉処理施設まで運搬する方法、販路

の創出など多くの課題があります。

一方で、ジビエの普及は捕獲頭数の増加だけでなく、捕獲鳥獣を地域資源として利用することで、農山村地域の所得向上につながる可能性も考えられます。

このような中で、今年度、市内の民間事業者によるジビエ食肉処理施設の設置が計画され、本市では冷凍庫などの施設導入に対し、支援をしているところです。

ジビエの利活用が進めば、現在の捕獲従事者が行っている捕獲後の処理作業の軽減も図られることから、今後もジビエの利活用に向けて、調査研究を進めていきたいと考えています。

【最後に】1点目の現場から搬出するなどの課題は、従事している猟友会の皆さんと相談をして、より負担のない政策を考えていただきたいと思います。

2点目の適切な処理に関して、コルゲート管による処理を令和7年度から実施していくとの答弁がありました。

1箇所に多くの鳥獣が埋められて、微生物で分解していくとの考え方のようにですが、設置箇所をどこにするのか、果たして減容化になるのかどうかという問題などがあります。

また、その管に雨水が溜まるとその水が汚染されるというような事例も発生しているようなので、十分気をつけて実施していただきたいと思います。

この課題も、従事している猟友会の皆さんと協議する必要があると思います。

3点目のジビエなど利活用に関して、数年前に解体施設の設置とジビエ利活用に関する提案が、朝日庁舎からありました。

まちづくり未来事業として、活用できる課題ではなかったかなと思いますが、捕獲頭数が少なかったこともあって、市として設置は難しいというものでした。

今となれば、鳥獣の捕獲頭数が増えてきており、早急に対応すべき課題になっていると思います。

全国で命を大切するという観点から、食材資源として活用する取り組みが進んでいます。

放射性物質の検査や衛生面など、色々な問題もありますが、食文化創造都市としての側面もあるので、積極的に取り組んでいくようお願いして質問を終わります。

【資料】有害駆除によるクマ頭数（肉重量は平均体重 80kg、30%で計算）

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	計	肉重量	廃棄量
2002 年	0	0	0	0	7	0	7	168	392
2003 年	0	0	0	0	10	0	10	240	560
2004 年	0	0	0	0	19	0	19	456	1,064
2005 年	0	0	0	0	10	0	10	240	560
2006 年	3	0	0	2	43	5	53	1,272	2,968
2007 年	0	0	0	0	5	1	6	144	336
2008 年	0	0	0	0	11	0	11	264	616
2009 年	0	0	0	0	8	0	8	192	448
2010 年	2	0	0	0	11	4	17	408	952
2011 年	0	0	0	0	8	1	9	216	504
2012 年	2	0	2	1	13	3	21	504	1,176
2013 年	0	0	0	0	8	1	9	216	504
2014 年	2	0	1	1	10	1	15	360	840
2015 年	0	0	0	0	8	1	9	216	504
2016 年	1	0	0	2	14	3	20	480	1,120
2017 年	4	1	1	3	13	7	29	696	1,624
2018 年	0	0	1	1	9	2	13	312	728
2019 年	1	0	2	2	15	6	26	624	1,456
2020 年	4	1	4	1	27	14	51	1,224	2,856
2021 年	4	0	0	1	10	2	17	408	952
2022 年	1	0	2	1	16	2	22	528	1,232
2023 年	4	1	5	3	63	12	88	2,112	4,928
2024 年	1	0	0	1	15	2	19	456	1,064

※ 2025 年 3 月議会の質問に向けた資料であり、2024 年度の数 は未確定

【資料】有害駆除によるイノシシ頭数（肉重量は平均体重 60 k g、40％で計算）

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	計	肉重量	廃棄量
2002 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2003 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2004 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2005 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2006 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2007 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2008 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2009 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2010 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2011 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2012 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2013 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2014 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2015 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2017 年	0	8	0	0	0	5	13	312	468
2018 年	0	1	1	0	21	2	25	600	900
2019 年	0	0	3	0	3	2	8	192	288
2020 年	0	10	10	0	14	11	45	1,080	1,620
2021 年	2	0	9	0	13	26	50	1,200	1,800
2022 年	12	2	11	1	36	37	99	2,376	3,564
2023 年	11	2	10	2	18	43	86	2,064	3,096
2024 年	17	1	21	1	22	36	98	2,352	3,528

※ 2025 年 3 月議会の質問に向けた資料であり、2024 年度の数 は未確定